

名古屋三河道路(西知多道路～名豊道路区間)の都市計画の案を作成するための基本方針(案)及び環境影響評価方法書に関する説明会

1 とき 令和8年1月27日(火)午後7時00分から午後8時05分まで

2 ところ メモリーとんがったスタイル文化センターホール

3 来場者 31名

4 出席者 愛知県 都市・交通局 都市基盤部 都市計画課
愛知県 建設局 道路建設課
東浦町 まちづくり部 都市デザイン課
東浦町 インフラ整備部 建設企画課

5 内容

1)挨拶

2)名古屋三河道路(西知多道路～名豊道路区間)の都市計画と環境影響評価について

3)都市計画の案を作成するための基本方針(案)について

4)環境影響評価方法書について

5)質疑応答

【質疑応答要旨】

質問等要旨	回答要旨
盛土、切土、高架といった道路の構造はどの段階で決まるのか。構造によって環境への影響が大きく変わるのではないか。	本説明会でのご意見を踏まえ、都市計画の案を作成するための基本方針を決定した後、次の都市計画素案の作成の段階で、より詳細な構造をお示しする予定です。 都市計画手続と環境影響評価手続を並行して進めることで、調査結果に基づき、必要であればルート帯の中で道路の位置を調整するなど、環境影響評価の予測結果を反映しながら手続を進めることができます。
本道路の計画交通量の想定は。	現在は 1km 幅のルート帯を示している段階であり、具体的な構造やインターチェンジ接続位置等が確定していないため、お示しできるものではありません。今後、道路構造等が決定していく過程で算定していきます。

<p>本道路は最短でいつ完成するのか。</p>	<p>現在は、都市計画手続の初期段階です。今後も各段階で説明会などを開催し、皆様からのご意見を踏まえながら、計画の熟度を上げてまいります。皆様のご意見を丁寧に検討していく必要があるため、現時点では、明確な完成時期を申し上げることはできません。都市計画手続だけでも複数年かかる見込みです。その後、事業化の段階に入り、詳細設計や用地交渉を経て工事に入ります。事業化後の具体的なスケジュールは、事業実施の段階以降でお示しすることになります。</p>
<p>1km 幅のルート帯により、地域が分断されてしまうのではないかと。</p>	<p>今後、1km 幅のルート帯の中のどこかに、横断図に示す道路を計画してまいります。本道路は高架等で現道より高い所を通る予定であり、その場合、交差する既存道路については、基本的にはくぐり抜けられるようにするか、必要に応じて付け替えることで通行できるように検討してまいります。</p> <p>具体的な付け替え等の計画は、事業実施の段階で、事業者が地域の方々と相談しながら決定してまいります。</p>

<p>本道路により、動物の生息域も分断されてしまうのではないか。</p>	<p>環境影響評価において、動物の生態を現地調査し、その結果を踏まえて、生態系の面的評価も行います。これにより本道路の生態系への予測評価を行います。</p> <p>例えば、本道路は河川を跨ぐ区間がありますが、動物の河川沿いの移動や、河川の横断を妨げる構造は想定しておらず、動物の経路は確保できると考えています。また、本道路の横断という点において、ロードキル(道路上の野生動物の事故)についても、動物に関する「道路の存在」の項目で予測評価を行います。本道路は高い所を通過する構造を予定しているため、その場合、動物が道路に登って横断することは考えにくいです。</p>
<p>東浦町からのあいさつにて、町が県に本道路を要望してきたとのことだったが、要望の時期や、町にとっての具体的なメリットを教えてください。なぜ一般道ではなく、本道路が必要なのか。</p>	<p>本道路については、以前から継続的に町から要望してまいりました。本道路に限らず、東浦町にとって必要な道路は、県や国に要望しております。</p> <p>本道路を始め、高規格な道路の計画は、国や県が広域道路ネットワークとして計画しています。そのような高規格な道路を具体化するためには、県と市町が一体となって推し進めていく必要があります。</p> <p>本道路のメリットとしては、渋滞の緩和や物流の円滑化だけでなく、災害時の物資輸送や避難ルートとしての重要性も挙げられます。また、本道路に大型車が転換することで、一般道の交通量が減り、渋滞緩和や交通事故の減少につながることも大きなメリットです。</p>

(説明会配布資料)

- ・名古屋三河道路(西知多道路～名豊道路区間) 都市計画の案を作成するための基本方針(案)
- ・名古屋三河道路(西知多道路～名豊道路区間) 環境影響評価方法書のあらまし